

税関総合職の キャリアパス

税関総合職は、関税局・税関を中心に様々な部局を経験し、キャリアアップしていきます。それぞれの職員がどのような役割を担って仕事をしているのか、どのような経験をしたのかをご紹介します。



- 1～2年目** 財務省関税局にて関税政策・税関行政の基礎的な業務に従事します。
- 3～4年目** 税関に出向し税関の実務について経験を積みます。
- 5年目～** 現場の経験も活かしつつ、企画立案業務に携わります。
- 海外・国内への大学院等に留学し、国際的視野を養います。
- 企画立案業務において中心的な役割を担います。税関では、現場の管理者として勤務します。
- 重要事項の企画立案に携わります。税関では幹部として、今までの経験を基に、各部の課題解決に取り組みます。
- 各部局の責任者として、関税政策・税関行政の企画立案および業務執行を指揮します。
- 税関の最高責任者として、より効果的・効率的な税関行政が実現できるよう、税関全体のマネジメントを行います。

※キャリアパスは代表的なものであって、人事の方針によって今後変更の可能性があります。



本田 晴夏
HONDA Haruka
本省係員

関税局 第一参事官室
国際調査第一係
【令和4年度入省 行政】

＜ 略歴 ＞
令和 4年 4月 東京税関総務部人事課採用
令和 4年 4月 関税局関税課法規係
令和 5年 7月 関税局関税課(参事官室(国際交渉担当))国際調査第一係(現在に至る)

税関の国際交渉担当として

1年目に関税課で法改正を担当した後、2年目は国際交渉業務を所掌する第一参事官室に配属されました。中でも、日本税関と米国・カナダ・豪州・ニュージーランドの税関との協力や、それらの国との政府間交渉の関税制度に関する窓口を担当しております。現在携わっている業務の一つとして、日米税関当局間の合意に向けた調整があります。このような国際交渉は1年では結果が出ないということも少なくありません。異動が多い私たちにとって、単純に業務をしっかりと引き継ぐだけでなく、相手方との関係構築も非常に重要な要素です。内容によっては係員でも相手方と直接やり取りし、時にはレセプションに参加することもあります。このような機会を捉えて相手方とwin-winな関係を築けるような心がけています。

大きな交渉に限らず、他国税関や外務省などの他省庁から、日本の税関や関税制度に関する質問や依頼が日々やってきます。担当者を確認したり、場合によっては議論し、調整をお願いしたりしながら、日本税関・日本政府としての立場

を踏まえた対応を考えることが、国際交渉担当の仕事だと考えています。まだまだ経験が浅く、話が来てはじめてその分野について触れることも多いのですが、困った時には上司や先輩に相談しながら積極的に業務に当たっています。就職活動時を振り返ってみると、専門性を持ちつつ制度や執行に関する政策立案、国際関係など様々な分野を経験できるところに税関総合職への魅力を感じたことが思い出されますが、2年間働いてきてその魅力を強く実感しております。皆さまと一緒に働ける日をとても楽しみにしています。



佐藤 賢太郎
SATO Kentaro
税関係長

横浜税関 川崎外郵出張所
統括審査官(通関第9部門担当)付審査官
【令和3年度入省 法律】

＜ 略歴 ＞
令和 3年 4月 東京税関総務部人事課採用
令和 3年 4月 関税局調査課総括係
令和 4年 7月 関税局関税課(参事官室(国際交渉担当))国際調査第一係
令和 5年 7月 横浜税関監視部統括監視官(取締部門担当)付監視官
令和 5年 10月 横浜税関川崎外郵出張所統括審査官(通関第9部門担当)付審査官(現在に至る)

水際取締りの最前線で、常に新しい経験を

入省後、約2年間財務省関税局で勤務し、その後現在横浜税関へ係長級職員として出向しています。関税局では、英国のCPT PP加入交渉といった国際業務や、課の窓口としての関係部署との調整業務を担当

しましたが、税関現場の実務知識を必要とする場面が多々あり、実際に現場へ出向して経験を積みたいたい日々考えていました。その点、若手時代から出向の機会があることは税関総合職の魅力の一つだと感じています。

税関出向後の3か月間は監視部取締部門へ配属となり、主に外国貿易船の船内検査、港湾の巡回や国際クルーズ船旅客の携行品検査に従事しました。同部門は船舶及び旅客・乗組員の携行品の取締りをその主目的としており、前述の業務のほか、港湾関係者や乗組員に直接職務質問を行うなど、常に社会悪物品の流入阻止に向け緊張感のある対応が求められました。

現在は川崎外郵出張所通関部門に配属され、国際郵便物の検査や郵便物への課税業務を行っています。同出張所は本邦における国際郵便物の輸出入の多くを取り扱っており、検査装置などを用いて郵便物の検査を行っています。実際に郵便物から社会悪物品が発見されることも多く、監視部の現場経験と合わせて、水際取締りの最前線で勤務できることは得難い経験だと思います。

税関総合職は早くから多くの業務を担当でき、新しい知識・経験に絶えることはないと感じています。将来、熱意ある皆様とともに働けることを楽しみにしています。



柳澤 直樹
YANAGISAWA Naoki
本省係長

関税局 業務課
総括係長
【平成28年度入省 化学・生物・薬学】

＜ 略歴 ＞
平成28年 4月 東京税関総務部人事課採用
平成28年 4月 関税局関税課(原産地規則室)原産地規則第一係
平成29年 7月 関税局調査課情報係
平成30年 7月 横浜税関川崎外郵出張所統括審査官(通関第4部門担当)付審査官
平成30年10月 横浜税関調査部統括管理官(検査第2部門担当)付管理官
令和元年 7月 横浜税関調査部統括審査官(調査第6部門担当)付調査官
令和 2年 1月 関税局関税課(経済連携室)経済連携第一係長
令和 2年 7月 関税局管理課調査官
令和 3年 9月 留学(米・カリフォルニア大学リバーサイド校)
令和 5年 7月 関税局業務課総括係長(現在に至る)

幅広い経験を通じて成長できる職場

現在、税関の輸出入通関手続を所掌する関税局業務課において総括係長として勤務しています。業務課は関税局内でも係の数が多くですが、私はその中で業務課の窓口として他省庁や他課室、課内の調整業務を主に担当しています。

課の中心となって動くことから責任も大きく、業務を遂行するために求められることも多いと考えます。例えば、スムーズな調整を行うためには、コミュニケーション能力はもちろんのこと、各係の業務内容をきちんと把握することが鍵となります。税関を取り巻く環境が日々変化の中で、各係の懸案事項を俯瞰的に見ることが求められます。これはなかなか大変ではありますが、同時に日々変動する環境の中で自らの視野を広げ、成長する絶好の機会でもあります。

これまでの係長級としての業務では、税関の現場での水際取締りや関税局での経済連携協定の交渉担当、採用担当業務に従事し、更に米国での留学の機会もいただきました。このような幅広い仕事を通じて、多岐にわたる知識や経験を身につけることができている。日々勉強で

はありますが、これらの知識と経験が現在の業務においても活かされており、また、今後、企画立案の中心的な役割を果たす際に有用なものになると確信しています。

今後もこれまでの経験を活かし、多角的な視点から税関行政に貢献するために、自身の更なる成長を追求したいと考えています。税関総合職は早くから多くの業務を担当でき、新しい知識・経験に絶えることはないと感じています。将来、熱意ある皆様とともに働けることを楽しみにしています。





夏見 太揮

NATSUMI Taiki

留学

海外留学（英国）
【平成29年度入省 経済】

- ＜略歴＞
- 平成29年 4月 東京税関総務部人事課採用
 - 平成29年 4月 関税局業務課総括係
 - 平成30年 7月 関税局関税課企画第一係
 - 令和元年 7月 名古屋税関中部空港税関支署統括審査官(特別通関部門担当)付審査官
 - 令和 2年 1月 名古屋税関調査部統括審査官(輸入調査第6部門担当)付審査官
 - 令和 2年 7月 名古屋税関中部空港税関支署統括審査官(検査第2部門担当)付審査官
 - 令和 2年10月 名古屋税関中部空港税関支署統括審査官(検査第1部門担当)付審査官
 - 令和 3年 4月 名古屋税関中部空港税関支署統括監視官(旅具取締部門担当)付監視官
 - 令和 3年 7月 個人情報保護委員会事務局企画第二係長
 - 令和 5年 7月 留学(英・ロンドン大学東洋アフリカ研究学院)
 - (現在に至る)

違いを学び、未来を創る

現在、新興国の台頭や紛争などによって、世界情勢の不確実性が增大しています。その中で日本は、国際社会において関係各国との間で協力関係を構築・深化させるを通じ国益を維持・拡大していくことが求められています。

そうした状況を踏まえ、私は外国政府・国際機関との会議において交渉する力をつけるとともに、海外情勢を踏まえた国内制度設計を行うための視座を養うべく、英国・ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)に留学しています。具体的には、ただ授業を聴き論文を執筆するのではなく、例えば授業の一環で学生が政策決定者の役となり国際問題の解決を図るロールプレイを行うなど、学生側からも発信することが求められるカリキュラムの下勉学に勤しんでいます。私生活では、私はこれまで長期間海外に居住した経験がなかったため、寮での共同生活や英国の食べ物に慣れるまでに時間を要したほか、英語でのコミュニケーションに日々悪戦苦闘し

ていますが、幸い友人にも恵まれ穏やかな生活を送っています。

その友人ですが、留学先のコースはグローバルサウスを中心とした各国からの留学生が集う多国籍な環境であり、いずれの国出身の学生も、英語が堪能であるのみならず、プレゼンテーション能力がとて高くいつも驚かされています。行政官として業務に生きる知識・技能を取得できるのは勿論、より一般的な日本と外国の違い、自分ひいては日本が学ぶべきことを日々発見できる点が留学の醍醐味なのではないかと考えます。



堀 直貴

HORI Naoki

本省補佐

関税局 監視課
課長補佐
【平成22年度入省 経済】

- ＜略歴＞
- 平成22年 4月 東京税関総務部人事課採用
 - 平成22年 4月 関税局関税課(参事官室(国際調査担当))国際調査第一係
 - 平成22年 7月 関税局関税課(参事官室(国際調査担当))FTA担当
 - 平成23年 7月 関税局総務課企画係
 - 平成24年10月 大阪税関関西空港税関支署統括監視官(旅具通関部門担当)付監視官
 - 平成25年 4月 大臣官房文書課企画調整室企画調整係長
 - 平成27年 4月 関税局関税課(参事官室(国際協力担当))鑑査専門官
 - 平成28年 7月 留学(英・フリストル大)
 - 平成29年 7月 関税局業務課総括係長
 - 平成30年 6月 外務省東南アジア諸国連合日本政府代表部二等書記官
 - 兼 インドネシア日本国大使館
 - 国際局開発政策課課長補佐
 - 令和 3年 7月 東京税関調査部国際情報センター室上席調査官
 - 令和 4年 7月 関税局監視課課長補佐
 - 令和 5年 7月 (現在に至る)

水際取締りのあるべき姿を考える日々

「税関」と聞くと、海外旅行から帰ってきたときに空港で受ける手荷物検査を思い浮かべる人も多いのではないでしょうか。私は現在、旅行者が出入国時に携帯する荷物や現金等の取締りに関する政策の企画・立案を担当しています。

「観光先進国」の実現という目標の下、日本は訪日外国人旅行者数を2030年までに6,000万人まで増やすことを掲げており、政府全体として様々な政策を駆使して目標達成に向けた取組を行っているところです。この数値目標は2015年の約3倍にあたることから、日本の玄関である空港などにおいて不正薬物等の社会悪物品の取締りを担っている税関にとっても決して他人事ではありません。こうした将来的な見通しや中長期的な視点を持ちつつ、税関の取締りはどうあるべきか、答えのない難問に日々頭を悩ます毎日です。

課長補佐は担当分野のチームリーダーとして、部下職員(係長・係員)と協力・連携しながら、その分野の政策の企画・立案を主体的に行う立場にあります。政策の原案作成に加え、幹部や上司への説明、省内外のステークホルダーとの調整、そして全体のスケジュール管理を主導する必要があるため、自分の意向を組織の意思決定に反映しやすくなる一方、その責任は必然的に大きくなります。求められる職責を果たすため、本省での勤務で得た知識や知見、税関の現場での経験、海外留学、在外公館への出向で培った経験などを総動員し、日々舞い込んでくる様々な問題の解決に向けて日々励んでいます。

財務省税関には行政官としての専門性を持ちながら多種多様な経験ができる環境があると思います。このパンフレットを手にとっているあなたが財務省税関の門戸を叩くのをお待ちしております。



吉ヶ江 智咲子

YOSHIGAE Chisako

留学

海外留学（米国）
【平成29年度入省 法律】

- ＜略歴＞
- 平成29年 4月 東京税関総務部人事課採用
 - 平成29年 4月 関税局関税課(参事官室(国際協力担当))国際調整係
 - 平成30年 7月 関税局総務課企画係
 - 令和元年 7月 大阪税関関西空港税関支署統括審査官(特別通関第6部門担当)付審査官
 - 令和 2年 1月 大阪税関調査部特別関税調査官(調査第2担当)付審査官
 - 令和 2年 7月 大阪税関関西空港税関支署統括監視官(旅具通関部門担当)付監視官
 - 令和 2年10月 大阪税関関西空港税関支署統括審査官(検査第3部門担当)付監視官
 - 令和 3年 7月 関税局管理課調査官
 - 令和 4年 7月 関税局監視課鑑査専門官
 - 令和 5年 2月 関税局付 兼 外務省大臣官房(G7サミット事務局主査)調査官
 - 令和 5年 8月 留学(米・カリフォルニア大学サンディエゴ校)
 - (現在に至る)

成長への挑戦

2023年7月より、米国のカリフォルニア大学サンディエゴ校に留学しています。キャリアを積むなかで、今後行政官として必要なスキルを改めて学びたいと考えたこと、また、学部時代は歴史学を専攻しており、大学では学んでこなかった政策形成に必要な知識を身に着けたいと考えたことから公共政策を学んでいます。

現在は経済学や統計学や政策立案の基礎を中心に学んでおり、今後これらを実践的なプロジェクトに活かすこととなります。また、同学は留学生も多く、各国政府からの派遣者や、民間企業出身者など、多様なバックグラウンドを持つ学生がいます。彼、彼女たちと交流することで、授業内のみならず授業外でもネットワークや見識が広がり、毎日が充実しています。

とはいえ、私は海外経験も少なく、生活はもちろん、慣れない英語での授業や課題、ディスカッションに悪戦苦闘しているのが実情です。新しく学ぶことも多く、忙しい日々ではありますが、それら全てを自身の成長の糧とすべく奮闘しています。

税関総合職は、成長を後押ししてくれる職場だと感じています。7年というキャリアのなかだけでも、関税局、税関、他省庁で多様な業務に携わり、今回の留学をはじめ、様々なチャンスを提供してきてくれました。そのどれもが、新しい業務や課題への挑戦、学びであったと感じています。留学での学びも今後の仕事に活かせるよう精一杯取り組んでいきたいと思っています。



茂木 勇

MOTEGI Isamu

税関課長

東京税関 総務部
総務課長
【平成15年度入省 法律】

- ＜略歴＞
- 平成15年 4月 東京税関総務部人事課採用
 - 平成15年 4月 関税局業務課総務係
 - 平成16年 7月 関税局総務課企画係
 - 平成17年11月 大阪税関関西空港税関支署統括監視官(旅具通関部門担当)付監視官
 - 平成19年 7月 大臣官房文書課企画調整室企画調整係長
 - 平成20年 7月 法務省入国管理局入国在留課留学審査係長
 - 平成22年 7月 関税局監視課総括係長
 - 平成24年 4月 東京税関監視部統括監視官(検査第6部門担当)付監視官
 - 平成24年 7月 東京税関業務部統括審査官(特別通関第2部門担当)付審査官 兼 監視部
 - 平成24年12月 法務省入国管理局入国在留課留学審査係長
 - 平成25年 7月 関税局業務課(知的財産調査室)上席調査官
 - 平成26年 7月 内閣官房副官補付(内閣官房TPP政府対策本部)上席調査官
 - 平成27年 7月 関税局総務課課長補佐(企画・広報)
 - 平成28年 6月 外務省在オーストラリア日本国大使館一等書記官
 - 令和元年 7月 関税局関税課(参事官室(国際協力担当))課長補佐
 - 令和 2年 7月 関税中央分析所総務課長
 - 令和 2年10月 大臣官房付 兼 内閣府府規制改革推進室参事官補佐
 - 令和 4年 7月 東京税関総務部総務課長
 - (現在に至る)

より良い税関行政を実現する

税関行政においては、財務省(関税局)が制度・法令を策定し、全国9税関がそれを執行する役割を担っており、相互に連携を図っています。税関は、税関行政を執行・運用する機関であり、これまで3つの使命である、①安全・安心な社会の実現、②適正かつ公平な関税等の徴収、③貿易円滑化の推進を果たしてきました。

もちろん制度・法令だけで税関行政が執行・運用されるわけではなく、より良い行政の実現のために、「ひと」がそれを支えています。東京税関は、山形県、群馬県、埼玉県、千葉県(一部)、東京都、新潟県及び山梨県を管轄し、成田空港と羽田空港の2大空港を抱えるとともに、日本有数のコンテナ取扱量を誇る東京港に本拠を構えます。その膨大な行政需要に対応するため約3,200人もの職員を擁しており、職員一人一人が輸出入貨物・旅客手荷物の通関業務や密輸の取締りなどのスペシャリストとして、組織的・一体的に連携しながら税関行政を支えています。

現在、私は東京税関で総務部総務課長を務めています。同課は、東京税関の運営に関する総合的な調整役を担っており、職員の体制の整備や職場環境の整備なども重要な仕事の一つです。これまで財務本省や関係省庁で制度・法令の策定業務に携わった経験も生かしながら、より良い税関行政を実現するための一員として、日々の業務に取り組んでいます。





本省室長

香川 里子

KAGAWA Satoko

関税局 経済連携室長
【平成9年度入省 法律】

〔略歴〕
平成9年4月 東京税関総務部人事課採用
平成11年7月 東京税関監視部国際情報センター室管理官
関税局総務課税関調査室
平成13年1月 東京税関業務統括審査官(通関第5部門担当)付主任
平成13年7月 東京税関調査部統括審査官(調査第5部門担当)付調査官
留学(米・バジニア大)
平成14年7月 関税局関税課(参事官室)貿易機関第一係長
平成18年7月 関税局関税課(経済連携室) 上席調査官
平成21年7月 東京税関調査部国際情報センター室長
平成22年7月 東京税関調査部統括審査官(審理部門担当)
平成24年4月 税関研修所研修-研究部教官
平成24年7月 関税局関税課課長補佐
平成25年7月 関税局関税課課長補佐
平成26年7月 関税局調査課課長補佐
平成28年7月 関税局監視課課長補佐
平成29年7月 関税協力理事会(プレジデント)
令和5年7月 関税局関税課経済連携室長
(現在に至る)

多様な出会いと刺激に富んだ魅力的な職場

インテリジェンスに憧れて乳飲み子を抱えて
東京税関調査部国際情報センター室長
(Head of International Intelligence Office)

インテリジェンスに憧れて希望し、入省3年目に勤務となったものすぐに関税局に異動となった、幻の国際情報センター室勤務。時は過ぎ、育休取得後に国際情報センター室長となりました。国際情報センターでは、諸外国との密輸関連の情報交換などを実施しており、そこは英語、スペイン語、韓国語などが飛び交う異空間。乳飲み子を抱えているため自分が海外を飛び回る発想は捨て、優秀なメンバーに語学力を活かして多方面に海外出張していただき、私は在京の大使館に日々通い、海外からの来訪者は会議でおもてなし、とチーム全体で国際人脈の拡大に努めました。公用携帯を日々握りしめ、世界中から来るメールの山に目を通し、密輸情報も保育園の閉園時間も逃さない、という充実した日々でした。仕事の効率性の追求や、足で情報を得ること、チームに頼ることを覚えたのもこの頃でした。

凝り固まった頭を丸くする多様な出会い
関税局監視課課長補佐(旅具担当)

「空と海が大好きなんです♪」という理由で財務省税関に入省した私がとうとう空港担当補佐に! 空港のテロ対策強化や訪日旅行者急増への対応のため、空港の税関業務の将来像を検討しました。全国の税関空港支署の若手職員でチームを作り、新千歳空港から那覇空港まで皆で出張し議論を重ね提言書を作成。最新技術にも目を向け、AI、機械学習、データ分析の活用など、民間専門家の方からヒヤリングを行い、米国税関や豪州国境庁と

意見交換し、税関内部の会議で何度も議論し青写真を描きました。国内外の官民の方、若手やベテランの方との出会いは凝り固まった頭を丸くし、白紙から検討した経験は物事のあるべき姿を考える際の基礎となっています。

財務省を飛び出して
関税局経済連携室長

世界税関機構(WCO)で4年間勤務した後、経済連携室長として着任しました。過去同室の課長補佐として経済連携協定(EPA)の条文作成や制度検討などを行いましたが、現在、日本の貿易額の約8割はEPA締結国で占めるなどEPAは日本の貿易の中心となりつつあり、EPAの履行経験も蓄積され課題も見えてきています。そこで改めて民間企業の要望や税関の執行上の課題を丁寧に確認しながら、第二世代のEPAを目指し条文の一部見直し作業などを室内で行っています。また、20本のEPAの膨大な統計を分析するため、室内希望者はPhysonチームに参加し、更なるデータ解析能力向上に向けて研鑽しています。韓国税関とはEPA履行促進のため、セミナーに講師を派遣したり視察を実施したりと、協力しつつお互いの制度から刺激ももらっています。

EPA交渉は、税制としての適正性と利用者の簡便性、産業保護と自由貿易、貿易円滑化と不正貿易の取締、など、様々なニーズの中でいかにバランスを取っていくかが重要です。そのバランスには、国内外の様々な方から幅広く意見をいただき、議論を重ねることが必要と思っており、今年も財務省を飛び出して様々な方々と議論させていただこうかと考えています。

中々に戦略的な財務省税関のキャリアパス

経済連携室長は、国際交渉での交渉官や外部セミナーでの講師などの仕事があり、国際情報センター室長やWCOでの勤務経験が役立っています。また、条文の見直しや交渉に際し必要な税関や国際貿易実務の知識も、税関勤務、海外税関や民間の方との意見交換などを通じてある程度得られており、財務省税関のキャリアパスは中々に戦略的であると感じています。

国内外での多様に刺激を受けた出会い、持続的な自己成長、ライフワークバランスを求めるその貴方、是非財務省税関にいらしてください。想像もしていなかった扉が開くかもしれませんよ。



税関支署長

松田 真吾

MATSUDA Shingo

大阪税関
関西空港税関支署長
【平成4年度入省 水産】

〔略歴〕
平成4年4月 東京税関総務部人事課採用
平成14年5月 外務省在シカゴ日本国総領事館領事
平成17年7月 関税局関税課(参事官室(監理調査担当))課長補佐
平成19年7月 関税局業務課課長補佐
平成21年7月 関税協力理事会(プレジデント)
平成24年8月 関税局調査課課長補佐
平成25年7月 東京税関業務部統括原産地調査官
平成26年7月 大臣官房専門調査官 兼 関税局管理課
平成28年7月 関税局関税課課長補佐
平成29年6月 関税協力理事会(プレジデント)
令和2年7月 関税局関税課原産地規則室長
令和3年7月 関税局関税課特殊関税調査室長
令和4年7月 関税局関税課経済連携室長
令和5年7月 大阪税関関西空港税関支署長
(現在に至る)

ピンチにもサポートあり! チームで仕事の団体戦!

窮地の際に…

本省課長補佐級

第1回日中韓関税当局長官会議の担当(国際関係補佐)の際、谷垣財務大臣(当時)と戦後初来日の中国税関の長官(海関総署長)、韓国税関の長官の面会を準備することになりました。会議も含め連日の準備作業を経て、当日、中国勢・韓国勢が無事来日しましたが、2時間前になって中国は大臣面会をキャンセル。想定外でどう回すか突然とする私を前に、局長や上司は冷静にさばいて下さいました。また、業務担当(執行関係補佐)の際には、米国税関との間で税関マター(AEO相互承認)について、ワシントンDCにて、数日にわたり当局同士の交渉を行いました。しかし、大揉めに揉めて、文字通り会議室から出て行ってしまふ米国税関の交渉相手。途方に暮れましたが、その後、同僚と上司の支援を得てリカバリーし、無事交渉はまとまりました。

就任直後のピンチに…

本省室長級

EPA関係(原産地規則)の交渉官として赴任直後(着任日翌日の夜)、英国との交渉のため、政府の一員として外務省の会議室にいる私がおりました。当然、業務は良く分かっておらず、最新の状況にも不案内でかなり無理がありました。同僚とチーム、さらに異動前のチームの方にも支えてもらい、何とか対応することができました。また、特殊関税の担当室長の際は、赴任の翌週からアンチダンピング関税に係る関税分科会委員へご説明することに。相手方にはアンチダンピングに係る論文を複数有する教授職(専門家)の方もおられ、冷や汗一杯で説明しました。全面的にチームや上

司に支えていただくとともに、異動前のチームの方にも万全の準備とご協力をいただき何とか委員のご了解を得て無事に政令発出となりました。

社会正義を追求する職場

大阪税関関西空港税関支署長

関空は職員570名超の大規模の大官署です。大別して、旅客系、貨物系、関税犯則系、総務・管理系に分けられ、その中には、監視取締、情報管理、収納(徴収)、広報なども含まれるので、事後調査(税務調査)以外、航空中心ではありませんが、およそ税関の機能は所掌しています。先人の努力の積み重ねの成果もあり、着任直後から関空史上最大量の覚醒剤の摘発、また、最近では、これも関空史上最大量の金の密輸の摘発など、社会に貢献する税関を現場でダイレクトかつダイナミックに実感するとともに、税関という組織の責任の重さに身が引き締まります。

関空で働いている税関総合職は今、私と3年目の女性職員の2名です。私自身は初の空港勤務、初の関西暮らし、10年ぶりの税関勤務で、当初は、現場(関西)で「あたりまえ」の基本的なことも知らず、経験不足で周りに負担をかけましたが、社会正義を追求する職場で貢献したいという想いは共通です。全面的にサポートいただき、今はチーム関空の一員として邁進しています。過去の経験不足は、一方では、思い込み、しがらみ、不合理な慣性などに縛られないカイゼンにもつながり得ます。空港を巡る情勢変化への対応のため、実力者の関空税関幹部陣や優秀な管理職、職員と、社会正義の追求のためにそれぞれ知恵を出し合い、汗をかくことは職業人として無常の喜びを感じます。

失敗を越えて…

何度も失敗し、冷や汗をかきました。恥づかしい思いも沢山しました。その度、上司/同僚/チームに支えられました。税関はサポートし合う団体戦の職場です。課題は多く、対応は容易ではありませんが、社会正義を追求する(それを実感する)職場で、「面白さ」が多いと感じます。サポートしあって、失敗を乗り越えていく、そんな良きチームで国の仕事に携わりたい、国に貢献したいと思われる方は、是非、門を叩いてもらえればと思います。



※ 空港での密輸撲滅キャンペーンにて

本省課長

馬場 義郎

BABA Yoshiro

関税局 監視課長
【平成元年度入省 化学】

- 〈略歴〉
- 平成元年 4月 東京税関総務部人事課採用
 - 平成10年 7月 関税協力理事会(ブリュッセル)
 - 平成13年 7月 国際開発政策課課長補佐
 - 平成15年 7月 関税局調査課課長補佐
 - 平成16年 7月 関税協力理事会(ブリュッセル)
 - 平成21年 7月 関税局監視課課長補佐
 - 平成22年 7月 東京税関業務部総括知的財産調査官
 - 平成23年 7月 関税局関税課国際協力専門官
 - 平成25年 7月 客員研究員(米・プリンストン大学)
 - 平成26年 6月 関税協力理事会(ブリュッセル)
 - 平成29年 7月 関税局関税課税関調査室長
 - 令和元年 7月 東京税関税関情報監視官
 - 令和3年 7月 東京税関成田税関支署長
 - 令和4年 7月 関税局調査課長
 - 令和5年 7月 関税局監視課長(現在に至る)



税関長

升平 弘美

MASUHIRA Hiromi

神戸税関長
【平成2年度入省 化学】

- 〈略歴〉
- 平成2年 4月 東京税関総務部人事課採用
 - 平成13年 7月 関税局調査課調査専門官 兼 関税局総務課
 - 平成14年 7月 国際開発政策課課長補佐
 - 平成16年 7月 国際開発政策課課長補佐
 - 平成17年 7月 関税局関税課(税関調査室)課長補佐 兼 関税局総務課
 - 平成18年 7月 関税局総務課課長補佐
 - 平成20年 7月 関税局業務課課長補佐
 - 平成21年 7月 横浜税関調査部管理課長
 - 平成22年 7月 横浜税関業務部管理課長
 - 平成23年 7月 関税局業務課関税評価専門官 兼 関税局監視課
 - 平成24年 7月 東京税関業務部総括知的財産調査官 兼 関税局業務課
 - 平成25年 7月 名古屋税関西部出張所次長
 - 平成26年 7月 大臣官房文書課政策評価室長
 - 平成28年 7月 名古屋税関監視部次長
 - 平成30年 7月 関税局関税課特殊関税調査室長
 - 令和元年 7月 長崎税関監視部長
 - 令和2年 7月 大阪税関関西空港税関支署長
 - 令和4年 7月 関税中央分析所長
 - 令和5年 7月 神戸税関長(現在に至る)



積める経験、膨大なデータ活用、そして世界最先端の税関へ

予想を超えてきた海外勤務

世界税関機構(WCO)事務局職員

入省前、海外勤務の可能性も示唆され、一度は経験できればと思っていました。

これまで計5回、11年の海外勤務を経験、その多くを世界税関機構(WCO)@ベルギーで過ごしました。訪問国も80カ国近く。専ら途上国税関への技術支援関連ですが、その際、さまざまな人に出会い、教えるというよりも一緒に考えました。私自身にも経験や知識が蓄積し、各国税関の発展のために一緒に取り組みました。例えば、WCO職員になるにも途上国税関職員にはその可能性はほばないに等しい状況で、「機会」の提供が切望されていました。そこで考えたのが日本の支援によるいわゆるインターンシッププログラム(Career Development Programme)の創設です。多難はありましたが、今では、このプログラムにも各国から125名ほどの職員が参加し、WCO事務局に採用され重要なポストに就く職員を輩出するまでとなりました。このように何かを変え、作ることに直接関与でき、その評価も目に見える形で受けられるのは、私にとっても貴重な経験、財産となっています。

税関のインテリジェンス、頭脳集団

税関情報監視官

全国の税関の唯一の情報部門として、税関が日々扱う輸出入貨物や旅客などの膨大な情報やデータを活用しつつ、税関の通関や取締りといったそれぞれの機能をバックアップする部署がありますが、この組織のトップが税関情報監視官。着任

当時は、ちょうどAIなどが再び脚光を集めはじめたころでした。データ解析を専門とするチームがありましたが、このチームを中心により先進的な水際取締りを目指し積極的にAIをはじめ先端技術の活用を推し進めました。そのための「人材」も欠かさないところ、外部専門家の協力も得つつ、職員の中でギークを生み出す活動を、号令をかけ自らも資格を取得し、見せつつ、推進しました。その際、一緒に頑張った職員が今では税関が抱える課題をAIなどを駆使して見事に解決していく様を見ると、とても心強く思います。

水際で安全・安心を守る、利用者目線も関税局監視課長

関税局監視課は、日本の玄関である海、空の港における税関の取締り、例えば不正薬物などの密輸を水際で阻止する、このような役割を担っています。身近なところでは、空港での税関検査や麻薬探知犬などがその代表例でしょうか。最近、特に取り組んでいることは、コロナ禍後、外国人旅行者が急激に増加しており、空港やクルーズ船ターミナルなどでの税関業務をデータ活用などを通じ一層効率的、効果的に行う必要があります。ご覧になられた方もいるかもしれませんが、例えば、空港での電子申告ゲートは便利になる一方まだ課題も多くあります。現在は入国管理庁とも協力をして、先端技術を駆使し入国手続きをワンストップで行う試みもはじめました。旅行者などが直接接する業務の運営を担当しており、成功も失敗も自らにかかっており、身が引き締まる思いで日々業務を行っています。

予想を超えるダイナミックさ

— 世界最先端の税関に

採用から30年超が過ぎましたが、国内にとどまらず海外も含めダイナミックな仕事ができる職場だと感じています。税関は、ヒト、モノ、マネーが行きかう交差点、そして膨大なデータ・情報の宝庫であり、これからいかにその膨大なデータ・情報を活用して、いかに将来の日本の社会の安全安心を守り、そして産業経済に貢献していくか問われていると思います。ぜひ、皆さんの力をこの職場で存分に発揮されませんか。



振り返ると

昨今、キャリアパスとされるものがしばしば変わり、加えて状況の変化に鑑みれば、今後も更に変わっていくかと思えます。そこで、これまでに必要と感じたスキルや経験などについて記してみます。

(1) 全体最適

課長補佐くらいまでは、自分の所掌に注力し、そこで良いものを作り上げることに集中していれば、かなりの部分は事足りますが、更に上位職位となり、所掌範囲が広がるにつれ、その中で相反する部分が出てきます。そのため、部分最適から全体最適に思考の軸足を移し、それを踏まえて企画・調整し、内容を再構築することがより必要となります。

他組織との関係においても、自己のみならず相手方の主張も含めて検討し、全体の利益の最大化を図ることが鍵となり、それが相手方の理解を得ることにもつながるか。とはいえ、それだけで必ずしもキレイに話がまとまるとは限らず、苦悩・苦闘することも日常茶飯事です。

(2) 兵は拙速を貴ぶ

時は流れ、逐次状況は変化します。現場では、検討を繰り返したとしても必ずしも万全になるとは限らず、特に前例がない場合には、得られた情報を基に初手を打ち、順次得られた情報を踏まえて次手を考え、軌道修正しながら進まざるを得ません。ご存じの通り、新型コロナへの対応がその典型例でした。また事件・事故への対応も、これに近いものです。このように状況が刻々と変化する場合、絶えず情報収集を行い、次策を考え、順次実施する、という事を短い周期で繰り返すことが必要であり、佇んでいては状況に遅れます。

しかしながら、このような作業を続けることは、かなり「強られる」ものかと思えます。幸か不幸か、過去、このような経験が割とあり、今思えばそれが図らずも役に立ったようです。

(3) 方法論の確立

遭遇する事案は数多く、検討すべき内容も多岐にわたります。このため、毎回、新たな検討法を探ることは困難であると共に、方法論を変えていくは目線が動き、成果物にブレが生じます。方法論を確立していれば、それに張り付ける部品を変えることで多くの場合、対応可能であり、その結果、ブレも抑えられることに。人はまずもって方法論を身に付けてはいますが、それを明確に意識していないことが多く、その結果、方法論が揺れることがあります。職位が上がるにつれ、こういった揺れは判断や結論に大きなブレや波を生じさせることがあるため、早めの認識が肝要です。

(4) プレイヤー、そして脱プレイヤー

経験を重ねると事案への対応が上手になり、良い判断が増えます。いわばプレイヤーとしての腕前が上がったところ。しかしプレイヤーであれば、基本、一つの役割しかこなせません。サッカーであれば、ゴールキーパーがミッドフィールダーやフォワードを兼ねることが出来ないのと同じです。

しかし、監督であればどうでしょうか。ゴールキーパーとも、ミッドフィールダーとも、フォワードとも話をし、戦略や戦術などその意図することを伝え、浸透させることにより、より多くの役割を果たすことが可能となります。しかしながら、これはストレスが溜まるもので

す。人に意図を100%伝えるのは難しく、大まかな事を伝えるのでかなり苦労します。事案対応にあたり、自分でやってしまいたい、と思った事は何度あったことやら。プレイヤーとしての感覚を保ちつつ、脱プレイヤーを、と言うのは、必ず自分に戻ってくるブーメランを投げるのにも等しく、苦笑せざるを得ません。

自分自身、公務員という選択肢を考えた頃、公務員となり多少の経験を重ねた頃、そして今現在と、いずれを比較しても、状況は勿論、見ていたモノや考えていたコトが異なります。したがって、ここに記したことがどう受け取られ、役立つかは分かりませんが、せめて一助となれば幸いです。

